

研究主題

教育支援センターの機能強化を図る 具体的な支援を探る

— 教育支援センターに求められる機能に注目して —

教育支援チーム

山梨大学アドバイザー

所内アドバイザー

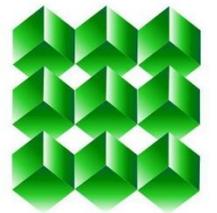
武藤 宏子

手塚 雅仁

小尾 一仁

樋口 和仁

田中 一弘



山梨県総合教育センター

研究の目的

- 教育支援センターが、その機能を発揮して、より良い不登校支援を行うことができるよう、教育支援センター・学校・総合教育センター相談支援センターで行うことができる具体的な支援の在り方を探る。

研究の方法

- 教育支援センターを訪問して行う実地調査や聞き取り調査、全国適応指導教室・教育支援センター等連絡協議会「山梨大会」での情報収集、各種調査報告書や文献、先行研究からの情報収集結果を分析し、考察をまとめる。

聞き取り調査・実地調査

目的：教育支援センターの状況把握
実践に関わる好事例の収集
各教育支援センターが抱える課題の把握
学校との連携に関わる具体的な情報収集

- ・ 教育支援センター訪問
（4月・5月・7月・11月・12月）
- ・ 全適連「全国会議」出席（8月）
- ・ 峡南地域教育支援センター研究会出席
（12月）
- ・ 電話での聞き取り

文献調査

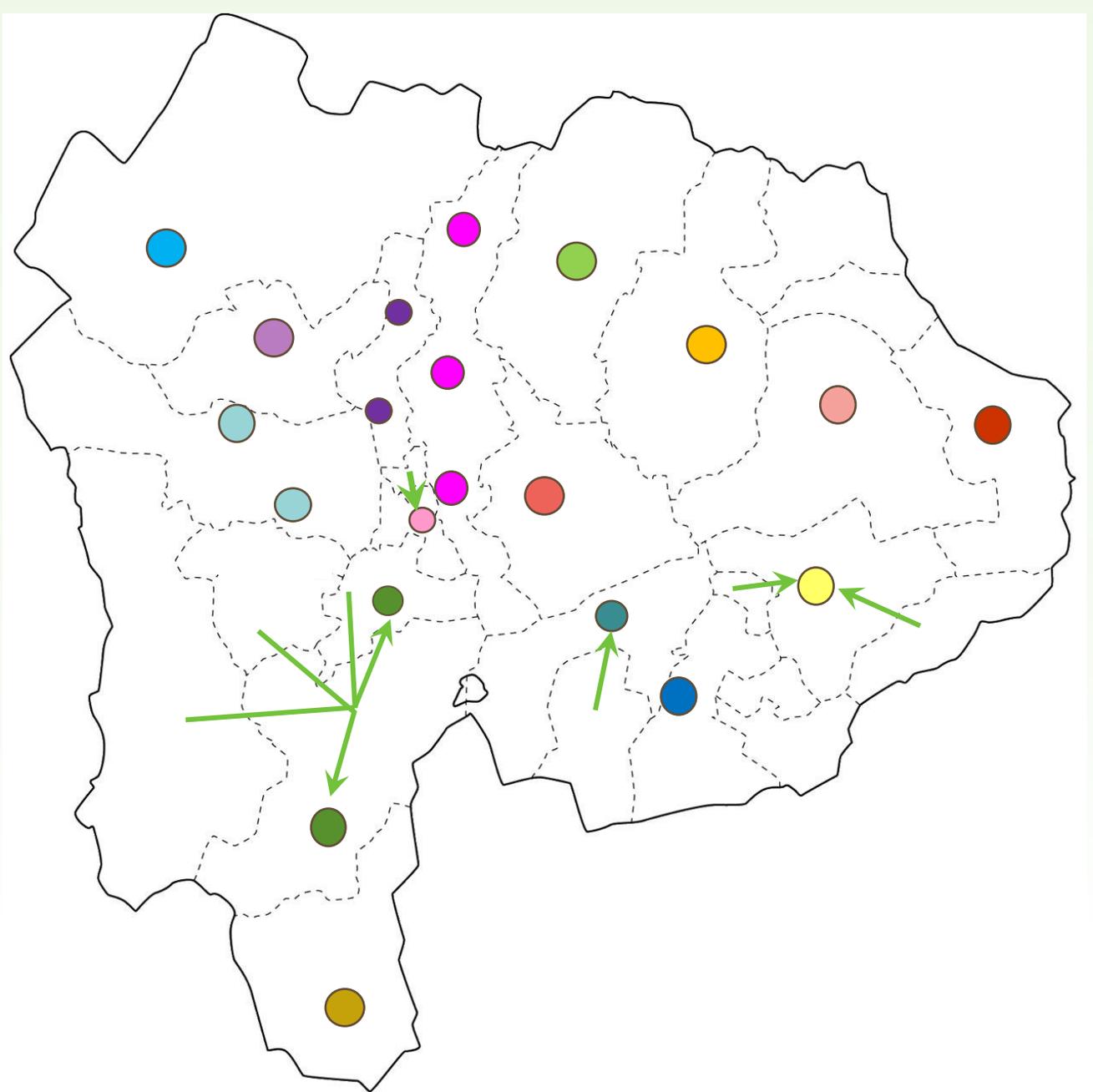
目的：教育支援センターの役割や機能、具体的な支援に役立つ情報収集

- ・ 各種文献・調査報告書等
- ・ 先行研究
文献検索は、文献検索データベースGoogle scholarを用いた。検索は「教育支援センター不登校」「教育支援センター・機能」のキーワードで検索した。

設置の状況

18教室 (21か所)

- ・共同設置の教室
- ・利用協定を結んだ教室がある
- ・民間学習塾内教室
別途 3か所



地区	市町村	名称
甲府	甲府市	あすなる学級本級
		あすなる学級東分級
		あすなる学級南分級
中巨摩	南アルプス市	あるぷす教室北Wing
		あるぷす教室南Wing
	甲斐市	オークルーム竜王教室
		オークルーム双葉教室
	中央市・昭和町	にじいろ教室
北巨摩	韮崎市	かがやき教室
	北杜市	エール

地区	市町村	名称
南都留	富士吉田市	教育支援室
	都留市 (道志村・西桂町)	教育支援センター・ スマイル教室
	富士河口湖町 (鳴沢村)	教育センター
北都留	大月市	教育支援センター
	上野原市	ステップ教室
峡南	市川三郷町・身延町 早川町・富士川町	やまなみ教室三珠教室
		やまなみ教室身延教室
	南部町	チャレンジ教室
峡東	山梨市	With
	甲州市	陽だまり教室
	笛吹市	ステラ

施設・設備の状況

- ・公民館等の社会教育施設内
- ・閉校した学校施設内
- ・旧児童館や使用されなくなった
放課後児童クラブの施設内
- ・(民間学習塾の一室)

人的配置

令和6年度の状況

指導員・支援員



- ・教職経験者(小・中・特別支援学校)
- ・教育相談経験者
- ・適応指導教室勤務経験者
- ・教育相談・支援に関する資格を有する者 等

配置人数



1教室あたり、2~6人

開設時間

月～金（祝祭日等は除く）

開室 9時～

8:30～1教室、9:30～2教室

閉室 15時または16時まで

12時まで 2教室、12:30まで 1教室、15:30 まで1教室

長期休業中

→閉室または日数や時間帯を限定した開室

平日は毎日開室 2教室

対象児童生徒

- ・設置市町村立学校に在籍
- ・設置市町村に在住

- ・小中学生対象
小3～、小4～、小5～と
定めている教室もある

不登校対策の拠点としての教育支援センターに求められる役割や機能

- 1 心理的支援** 不登校児童生徒に対するカウンセリングや心理的サポートを提供し、情緒の安定を図る
- 2 学習支援** 学校に通えない児童生徒に対して、個別指導やオンライン学習を通じて学習の遅れを補う
- 3 社会的自立支援** 児童生徒が社会的に自立できるように、進路指導や生活習慣の改善をサポートする
- 4 他機関連携** 福祉、医療、地域の他の教育機関と連携し、包括的な支援体制を構築する
- 5 保護者支援** 保護者に対しても相談窓口を設け、家庭での支援方法や情報提供を行う

安心・安全な
居場所機能

①包み込む

学習支援・進路
支援・成功体験
の場としての
機能

②架ける



④引き出す

連携を図る
機能

社会的自立に繋がる
さまざまな力を育む
機能

③育む

教育支援センターに求められる機能

・居場所づくり

ほっとできるスペース

多様な学び方ができる環境

・心理面のサポート

児童生徒・保護者両者に

カウンセラーが来所して面接

SCとのオンライン相談

・個に応じた利用形態

架ける

居場所

包み込む



引き出す

育む

県内の教育支援センター内の画像により、
居場所機能の工夫や、多様な学び方に
応じる環境設定等についてお伝えします。

居場所

包み込む



引き出す

育む

連携

架ける

- 学校への情報提供
学習状況・通室状況
- 月 1 回の情報共有会議
- 担任との面談
進路指導の方向性を共有
- 付き添い登校
- 別室登校時の滞在支援

居場所

包み込む



引き出す

- ・異年齢での遊びや活動、教室外施設での体験活動で、コミュニケーション力を育む
- ・好きなことや得意なことを活動内容に設定して意欲を育む
- ・支援者との個別なかかわりや小集団でのなかかわりから、段階的に集団参加に向けての気持ちを育む

育む

社会的自立
に向けて

連携

架ける

居場所

包み込む

- ・個別の支援で学習や進路への興味関心や意欲を引き出す
- ・在籍校教諭による学習指導（週3日 1時間ずつ）
- ・教育支援センター内でのテスト受験・進路学習支援
- ・市内3教室合同学習会の企画



引き出す

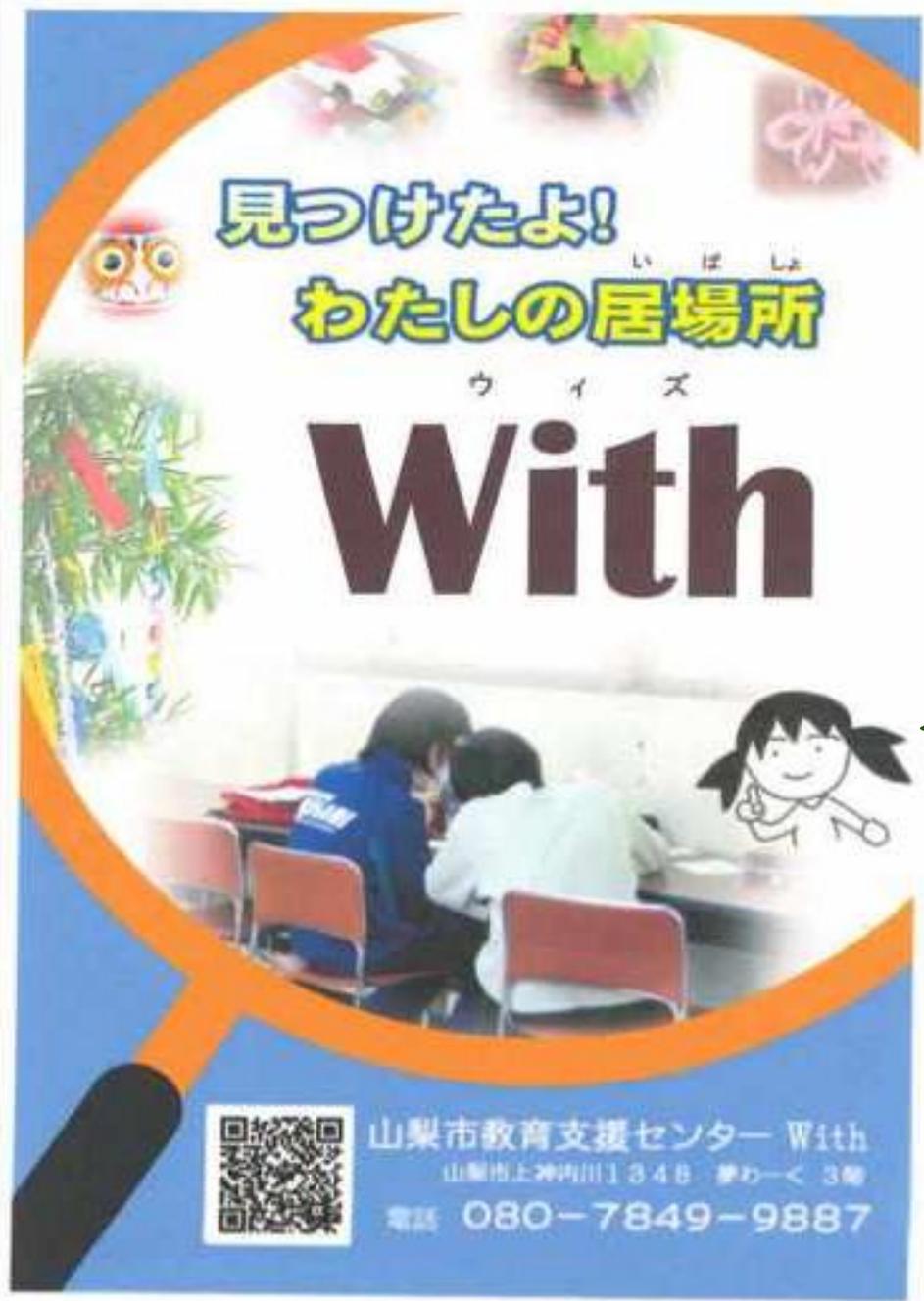
社会的自立
に向けて

育む

社会的自立
に向けて

連携

架ける



ハガキ大

QRコードから、HPを閲覧可能

通室生が描いたイラスト

周知を図る取り組み

○教育支援センター職員による**学校訪問**

→管理職以外の教員が応じる例も・・・(教育支援センター職員と話す機会)

○**紹介動画**を作成

→設置地域の**教職員**が見ることができるように校務支援システム内に保存

○養護教諭部会の**研修**として、教育支援センターを**見学**

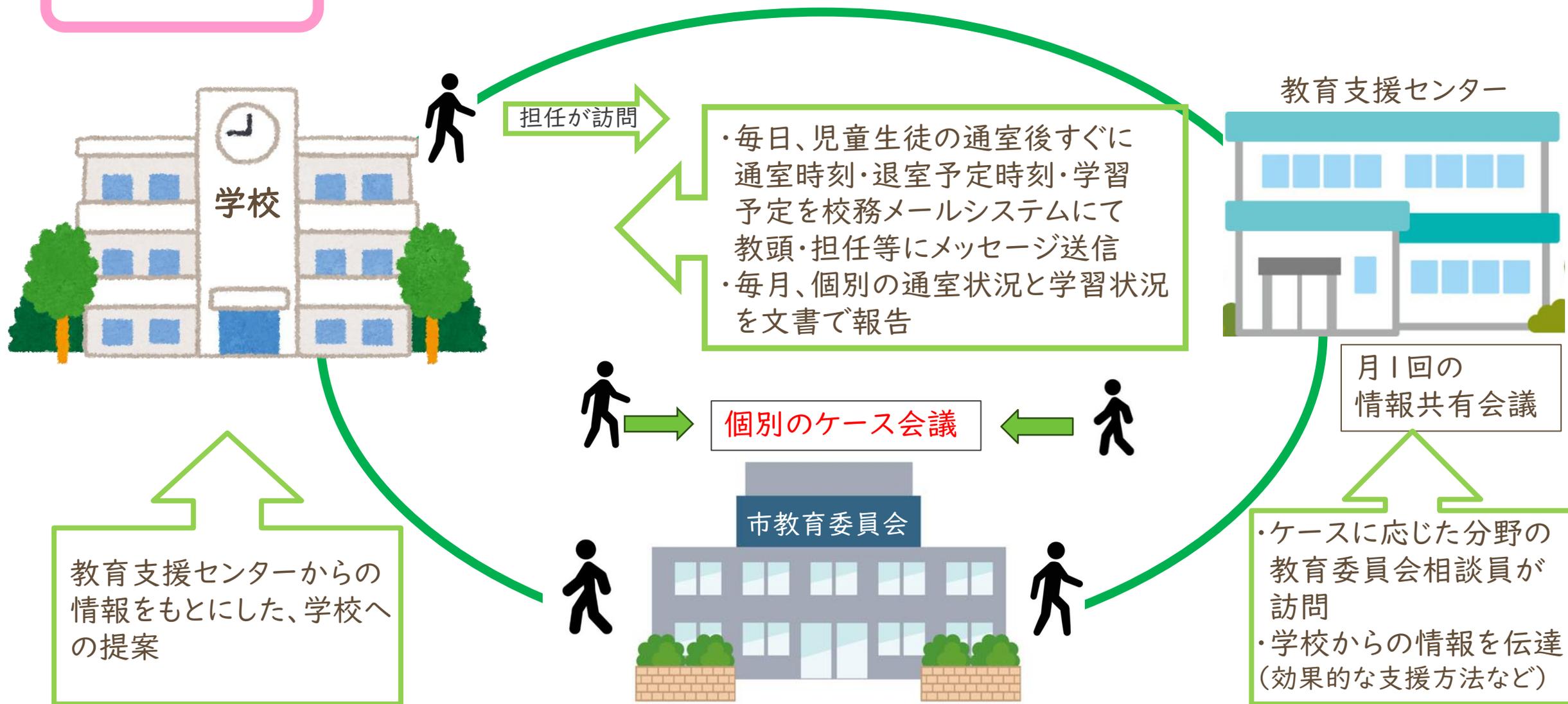
○教育支援センターと同施設内での会議日に**訪問、見学**

事例Ⅰ

- ①児童・保護者から教頭へ通所希望
- ②教頭は、校長に報告
- ③校内で検討
- ④教頭が、市教育委員会に「相談シート」を提出
- ⑤見学希望日の調整
- ⑥見学・体験通室
- ⑦通室意思確認（教育支援センターが申請書を保護者に配布）
- ⑧保護者は学校に申請書を提出
- ⑨申請書受理（学校→市教育委員会→教育支援センター）
- ⑩正式に通室

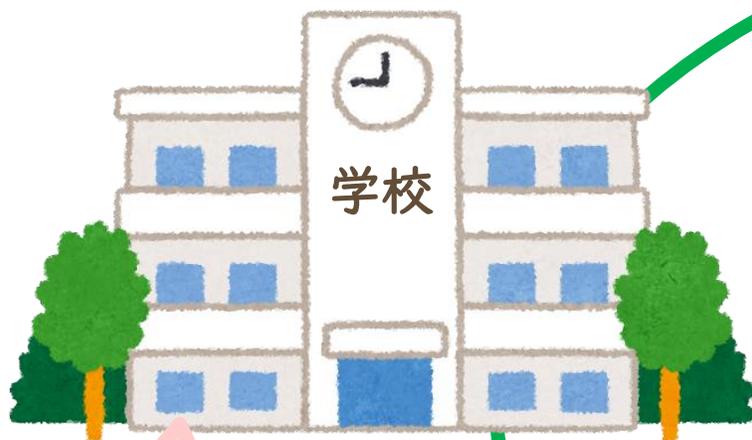
事例2

積極的に人と情報を繋ぎ、連携機能を強化した例



事例3

校内教育支援センターとの連携例



校内での居場所

甲府市
南西中・北西中・北中・東中・上条中内に
校内教育支援センター「ほっとルーム」がある

北杜市
令和6年度から、公立小中学校17校に校内支援教室
「ステップルーム ひまわり」がある



聞き取り調査からの考察

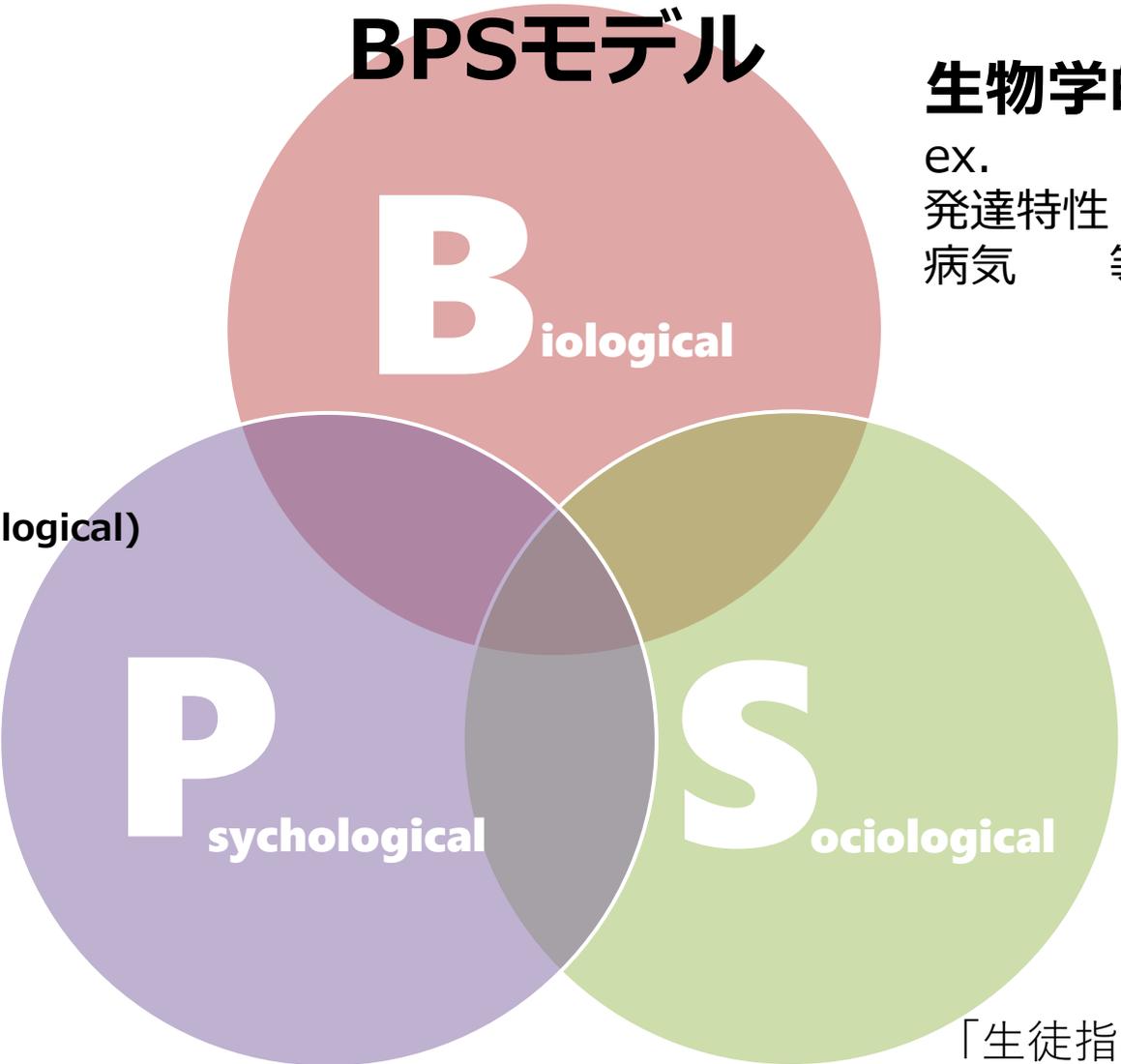
- 教育支援センターは、学校に行けない児童生徒の学び場であり、機能している居場所である。
 - 「社会的自立」は個別に異なるため、個に合わせた指導・支援が柔軟にできる点でも、意義のある居場所である。
 - より良い支援を行うためには、事例がヒントとなる。
 - 教育支援センターを知ること、知ってもらうための機会を設けることを、各立場（学校・教育支援センター・総合教育センター教育支援）で行うことが、継続して必要である。
 - ▲教育支援センターへつなげることに抵抗感をもっている関係者もいる。
 - 「学校に戻れなくなるのではないか」「遊び場になってしまうのではないか」
 - 「学校から見放されたと保護者が思うのではないか」
- 実際の好事例、機能や意義を伝える必要がある。互いに繋がり続け、チーム支援が大事。

文献調査より

チーム支援の鍵・・・アセスメント

児童生徒の課題を、生物学的要因、心理学的要因、社会的要因の3つの観点から検討し、統合する

BPSモデル



生物学的要因 (Biological)

ex.
発達特性 (特別な教育的ニーズ)
病気 等

心理学的要因 (Psychological)

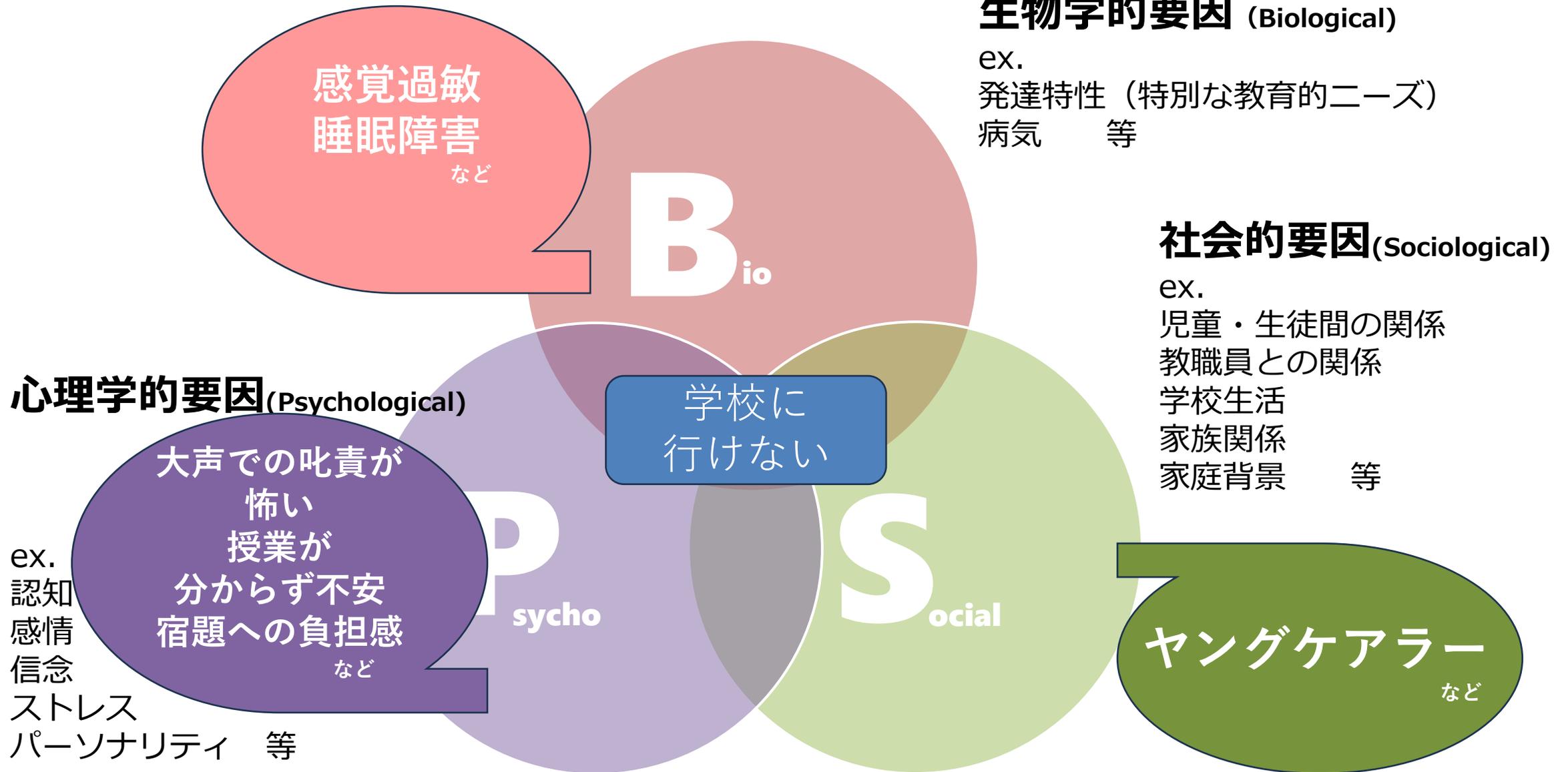
ex.
認知
感情
信念
ストレス
パーソナリティ 等

社会的要因 (Sociological)

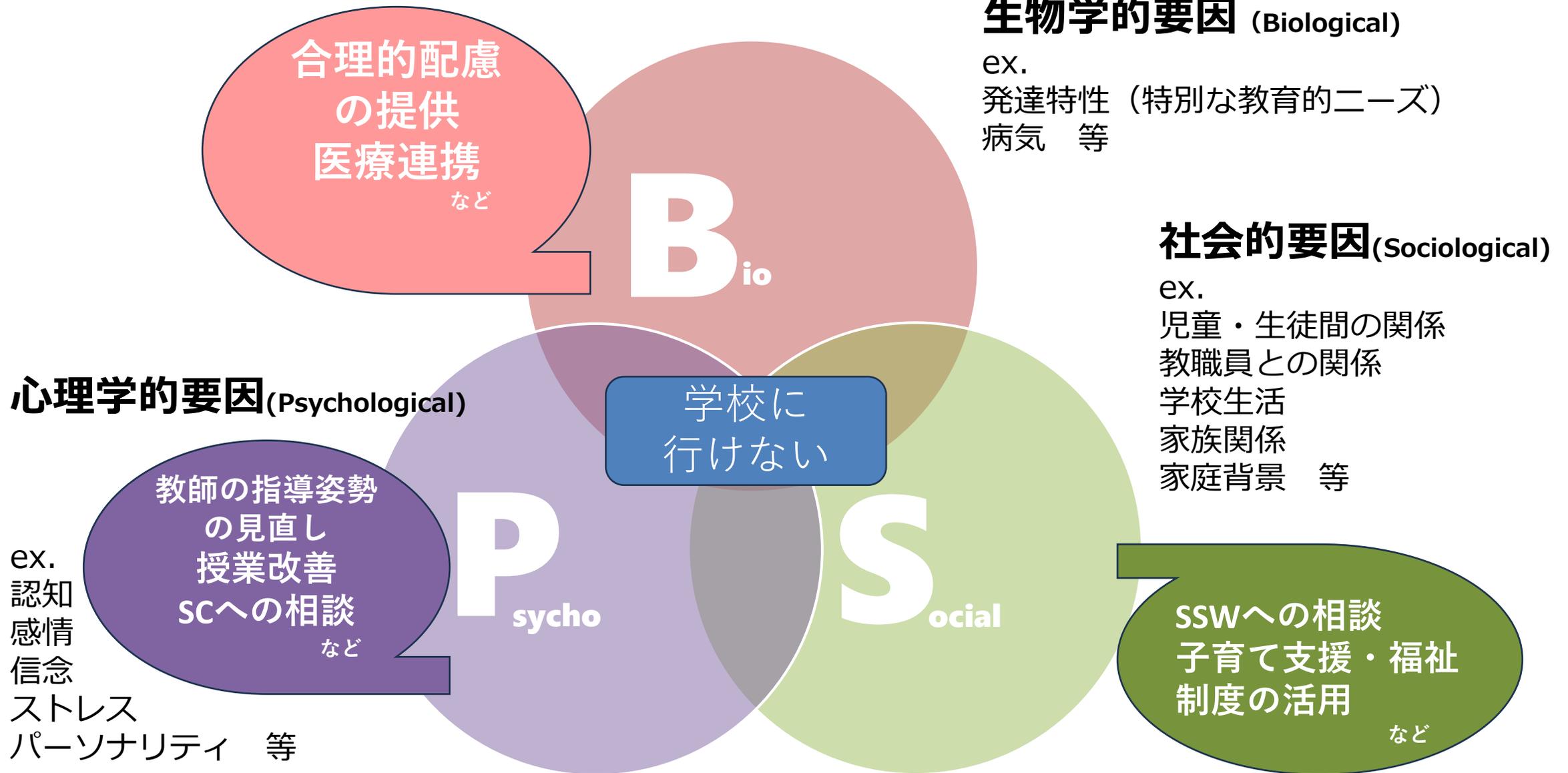
ex.
児童・生徒間の関係
教職員との関係
学校生活
家族関係
家庭背景 等

「生徒指導提要」 (改訂版) を参考に作成

きっかけ要因・背景要因によって支援は変わる



きっかけ要因・背景要因によって支援は変わる



★リソース（強みとなるもの）は何か？ 自助資源と支援資源

不登校の要因分析に関する調査研究
報告書（令和6年3月公表）より

過去の研究から、不登校のリスクを軽減しうる要因として挙げられている
（Ulaş & Seçer, 2024）要因のうち、
児童生徒本人に聴取可能な項目を選択したものの。

授業・行事・活動への積極的な参加
勉強が得意、得意な教科がある
人とのかかわり、感情コントロールが得意
教職員との良好な関係
仲の良い友人がいる
クラブ活動・部活動への積極的な参加
具体的な進路希望
その他秀でたこと、得意なこと等
学校外の別の集団への参加
学校外の友人関係
保護者と学校の良好な関係
家庭内での良好な関係

文部科学省委託事業 不登校の要因分析に関する調査研究 報告書

令和6年3月公表

公益社団法人 子どもの発達科学研究所
 浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター

実施数		教師調査		児童生徒調査		保護者調査	
		調査 A	調査 B	調査 A	不登校児童生徒対象 調査 B	調査 A	調査 B
吹田市 (大阪府)	指定校	1,365	64	1,373	48	(未実施)	11
	その他	(未実施)	522	(未実施)	48	(未実施)	62
府中市(広島県)		8 (未実施)	69	380	11	357	7
延岡市(宮崎県)		5,913	140	5,238	156	2,923	45
山梨県	小中学校	11,785	559	7,796	356	6,498	203
	高校	4,448	70	3,523	76	2,013	21
合計		23,519	1,424	18,310	695	11,791	349

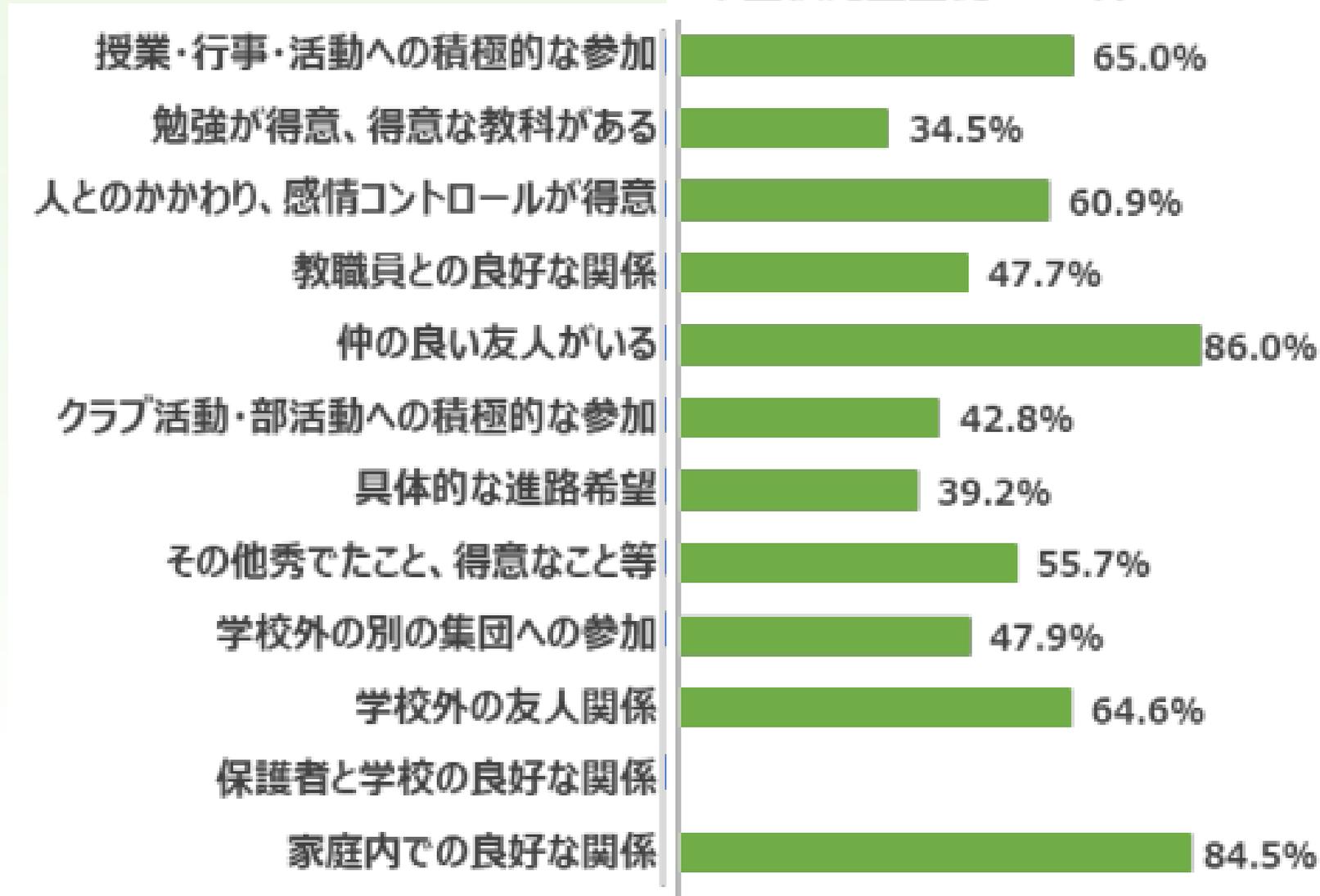
調査Bを実施した令和4年度の不登校児童生徒のうち、
 山梨県の不登校児童生徒の割合は

62.2%

★児童生徒の回答結果 → 不登校リスクを軽減する因子をもっている

不登校児童生徒 239名

※239名は、教師がR4不登校として報告し、かつ児童生徒が調査Bに回答した数



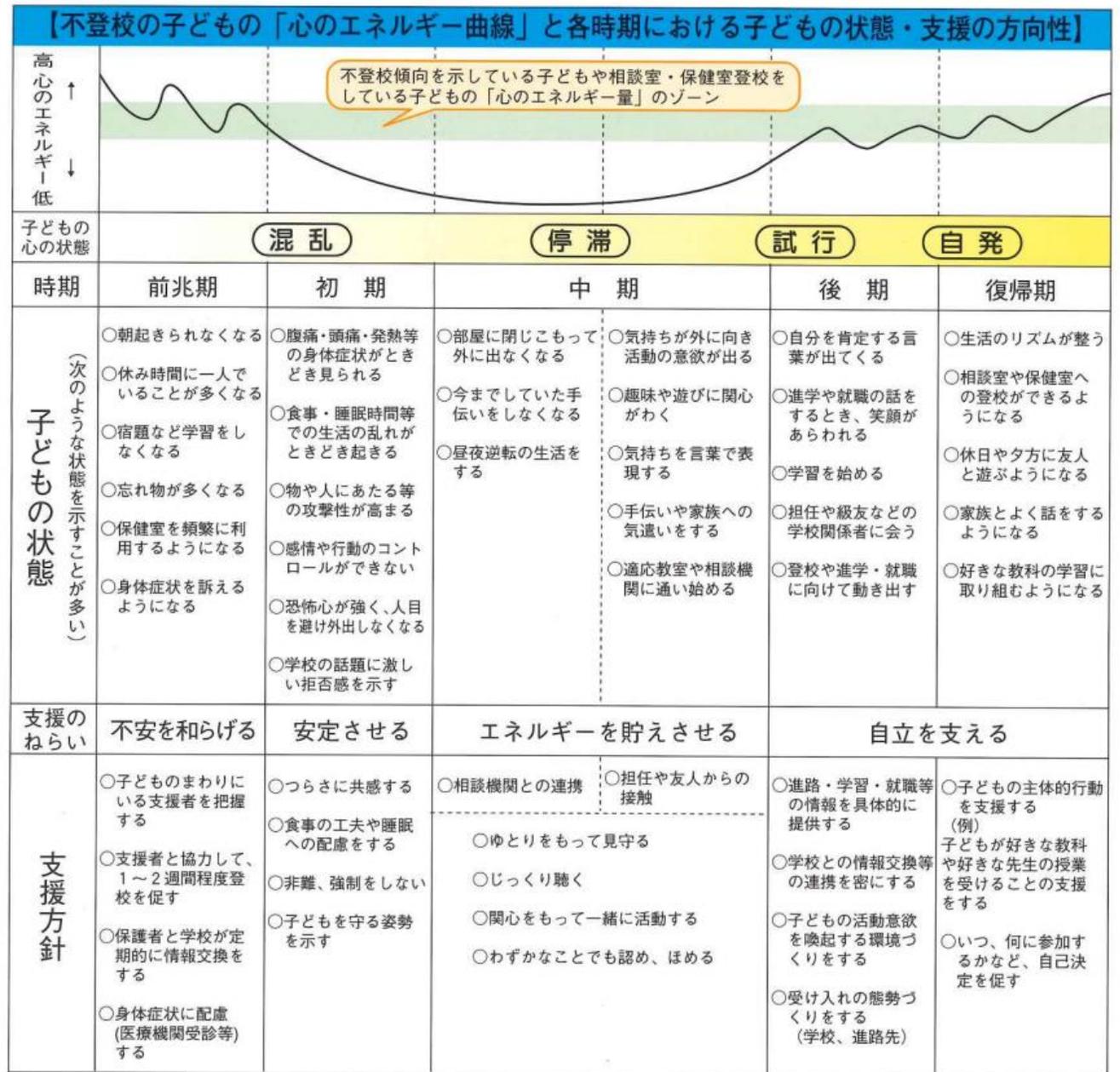
不登校の要因分析に関する調査研究 報告書
(令和6年3月公表) より

不登校の子どもの心のエネルギー曲線

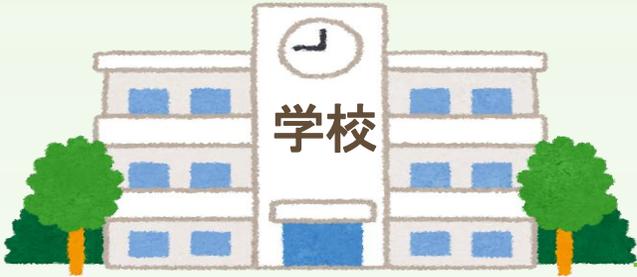
佐賀県教育センターが、1985年に作成し、その後の状況に応じ2005年に改訂したものを、2011年にも研究報告されている。

不登校になった子どもが、回復していく過程には特徴があることが知られています。

この不登校の子どもがたどる一般的な過程を、「子どもの心のエネルギーの高低」で表したものが「心のエネルギー曲線」です。



研究のまとめと今後の方向性



- ・欠席のきっかけや背景の早期把握に努め、リソースもチームで検討して対応する。
- ・設置地域の教育支援センターについて、職員に周知を図る。
- ・教育支援センターとの連絡に留まらず、支援方針について定期的に話すようにする。



- ・チーム学校の一員として、児童生徒理解に努める。
- ・通室生のニーズと教育支援センターの機能を合わせて、運営を行っていく。
- ・他の事例を参考にして、機能強化に取り組む。
- ・連絡に留まらず、支援方針を定期的に学校と共有するようにする。

相談支援センター 教育支援



- ・チーフSCと指導主事による定期訪問により、ニーズに応じた情報提供を行ったり、相談に応じたりする。
- ・教育支援センター等連絡協議会で、運営の充実に向けた情報発信を行う。
- ・教職員の研修会等で、教育支援センターに関わる内容が含まれる際には、より丁寧に概要を伝えていく。